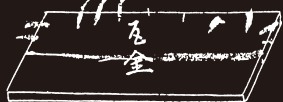


火縄銃のできるまで

火縄銃は銃身(鉄部分)と銃床(木製部分)、引金、火縄挟み、火蓋、地板などの金具の部分からなる。銃身は、よく鍛錬した瓦金を真金によって丸くパイプ状にし、更に巻板(帯状の細長い鉄板)を筒に巻いて(カツラ巻)一層強くした。その工程において、丸や八角形に仕上げ、ネジを切り、火皿・目当てを付けて完成した。

銃床は檜の木を使い、銃身とカラクリに合わせて作るが、特に「カルカ」(玉を込める棒)を銃床に納める穴には苦勞したという。鉄は、播磨(兵庫県)や伯耆(鳥取県)、それに^{いすも}出雲(島根県)など山陽山陰地方の「たたら」から運び使用した。

1 鉄砲の大きさに合わせて注文した鉄板(瓦金・地板)を打って鍛える。



2 芯を入れ、筒の形にするがこれを荒巻という。



3 荒巻に真金を入れ、接合した部分が判らなくなるまで鍛える。熱する時に真金は抜く。



4 鉄板を打ち伸ばし、つなぎ合わせ、細長い板をつくる。巻板という。幅は3cm、厚さは瓦金と同じ。



5 巻板を筒にまきつけ鍛える。これを二重にまいた筒が二重巻張りである。



6 筒先の部分には薄手の巻板を使い、細くする。



7 鉄を溶かすか、はめ込みで火皿をつける。筒先の部分に厚手の巻板をまき、銃口のふくらみとする。



8 筒の両口へ十文字に糸をはり、ゆがみのないように調整する。



交通のご案内



公共交通機関でお越しの場合

JR北陸本線 湖国バス乗車 約15分 「国友鉄砲の里資料館前」下車
[長浜養護学校経由]健康パークあざい浅井支所行

お車でお越しの場合

北陸自動車道 長浜インター下車 約5分 国友鉄砲ミュージアム

◎大型バス無料駐車場あり 徒歩3分(4台可)
 ミュージアム前駐車場あり(普通車5台)

■開館時間 / 午前9時～午後5時(入館は午後4時30分迄)

【年中無休】※12月28日～1月3日のみ休館

■入館料 /

一般	300円(240円)
小・中学生	150円(120円)

※()は20名以上の団体料金です



国友鉄砲ミュージアム

(国友鉄砲の里資料館)



〒526-0001 滋賀県長浜市国友町534番地
 TEL&FAX.0749-62-1250
<http://www.kunitomo-teppo.jp/>

国友鉄砲 ミュージアム

戦国日本の歴史を変えた
国友の火縄銃



シアタールーム

国友鉄砲の歴史や火縄銃の仕組み、国友町のことが分かりやすく解説された映像がご覧いただけます。放映は随時、放映時間は約10分。収容人数45人。国友町に伝わる「花火陣屋」についての展示もあります。



展示室

期間限定の特別展示を行う展示室です。国友一貫齋コーナーもこちらです。

売店

火縄銃や国友に関する書籍やグッズを販売しています。通販も可能です。



国友一貫齋



東洋のエジソン国友一貫齋翁は、反射望遠鏡・気砲(空気銃)・魔鏡等の製作や懐中筆(筆ペン)・玉燈(ランプ)・短銃等を発明した。特に望遠鏡での太陽の黒点観測、月の観測、金星・木星・土星の観測図は、世界でも類例のない貴重な記録と言われている。

国友が生んだ科学者・文化人

辻宗範



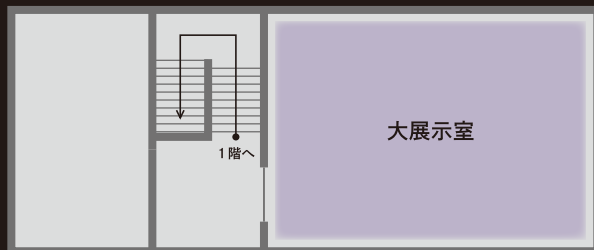
茶人・辻宗範翁は、小堀家茶道師範である富岡友喜より茶道・花道・書道・歌道などを学び、晩年には遠州流茶道家元の再興に当たり「返し伝授」を行う一方、茶の湯を楽しみ多くの書画を残した。辻村養玄翁、三角有裕翁は医師として江戸後期に活躍した。

国友への鉄砲伝来

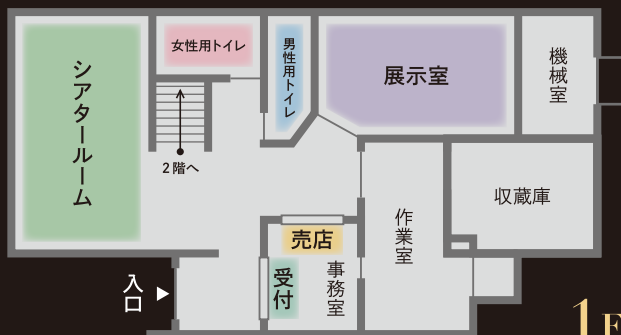
かどくらみさき

天文12年(1543)8月25日、種子島の門倉岬に一艘の中国船が嵐のために漂着した。そこに乗っていたポルトガル人から、初めて日本に2挺の鉄砲(火縄銃)が伝えられた。以降、国友・堺・根来など各地で鉄砲が作られた。鉄砲と共に伝わった新しい文化、特にネジの開発は、日本の歴史を大きく変えた。

種子島に伝来した鉄砲は、足利將軍の命により早くも伝来の翌年に当る天文13年(1544)から国友で作り始められた。ネジを切る方法など創意工夫を重ね、大量の鉄砲製造が可能になった。最盛期には、国友には70軒の鍛冶屋と500人を越す職人がいた。



2F



1F



大展示室

国友の火縄銃をはじめとした貴重な火縄銃50挺あまりの展示のほか、火縄銃製作の仕組み、製作に使われた道具などをご覧いただけます。



火縄銃 体感コーナー

火縄銃の実物に触られます。担いで、覗いて、その重さと臨場感を体感してみてください。

鉄砲鍛冶の様子

音声ガイド案内

当時の鉄砲鍛冶の様子を、音と音声ガイドで案内するミニシアターです。



国友鉄砲のいろいろ

火縄銃の玉は丸い鉛を使用しており、その玉の鉛の重さ(大きさ)によって、細筒・中筒・大筒に区別される。細筒(足軽銃)は2匁玉筒(口径11mm)前後、中筒(侍筒)は10匁玉筒(口径19mm)前後で、20匁玉筒(口径24mm以上)を大筒という。江戸後期には短筒や脇指鉄砲、連発銃等も作るようになった。現存する多くの国友銃は江戸中期から後期に製作されたものである。